

第16回 箕面市地域公共交通活性化協議会 会議録

1. 日時

平成24年9月13日(木) 午前9時30分～午前11時00分

2. 場所

箕面市役所 委員会室

3. 出席者

(会長)

- ・箕面市副市長 伊藤哲夫

(副会長)

- ・箕面市地域創造部長 広瀬幸平
- ・大阪大学大学院工学研究科准教授 松村暢彦

(監事)

- ・街づくり支援センターみのお 清田栄紀
- ・箕面商工会議所専務理事 松出末生

(委員)

- ・大阪大学大学院工学研究科助教 猪井博登
- ・阪急電鉄株式会社都市交通事業本部都市交通計画部部长 庄健介
- ・阪急バス株式会社取締役自動車事業部長 西山哲
- ・社団法人大阪タクシー協会常務理事 井田信雄
- ・みのおの交通を考える会 永田よう子
- ・自転車道ネットワーク公募市民 松木亮
- ・分科会の副分科会長 井上整
- ・大阪船場繊維卸商団地協同組合専務理事 工藤寛士
- ・東急不動産SCマネジメント株式会社箕面マーケットパークイワ総支配人 友金聡
- ・株式会社ビバーレコートビバーワールド箕面船場統括マネージャー 米津秀春
- ・国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官(総務企画) 南条正幸
(代理出席) 運輸企画専門官 大崎政洋
- ・国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局首席運輸企画専門官(輸送) 黒田唯雄
- ・大阪府都市整備部交通道路室参事 森岡武一
- ・国土交通省近畿地方整備局大阪国道事務所管理第二課長 河合良治
(代理出席) 高槻維持出張所所長 井上顕史
- ・大阪府池田土木事務所参事兼維持管理課長 錦織慎
(代理出席) 地域支援・企画課企画グループ長 松井信一
- ・箕面市みどりまちづくり部長 山田学
- ・大阪府箕面警察署交通課長 秋田潤一
- ・箕面市市長政策室長 具田利男
- ・箕面市健康福祉部長 小野啓輔
- ・箕面市地域創造部活力推進室長 河原弘明

(欠 席)

- ・粟生第二住宅自治会防犯防災交通部長 浜本俊二
- ・阪急バス労働組合副執行委員長 勝 正雄
- ・箕面市教育委員会事務局教育次長 中井勝次
- ・株式会社ジェット管理本部長 横山吉広
- ・学校法人大阪青山学園事務部経理課長 福田貴夫
- ・有限会社箕面自動車教習所取締役総務部長 桐村敏昭
- ・国土交通省近畿運輸局企画観光部交通企画課長 加納陽之助 (オブザーバー)
- ・国土交通省近畿運輸局自動車交通部旅客第一課長 阪部光雄 (オブザーバー)

以上、委員31名のうち25名出席、オブザーバー2名のうち2名欠席。

4. 議 題

- (1) 利用促進に関わる取り組みについて
- (2) 実証運行の状況について
- (3) 平成25年度の本格運行に向けた今後の取り組みについて
- (4) その他

5. 議事要旨

(1) 利用促進に関わる取り組みについて

【意見・質疑応答は次のとおり。】

- より多くの利用者にポケット時刻表を持ち帰りいただくためには、オレンジゆずるバス車内におけるポケット時刻表の配置場所を工夫したほうがよい。
→阪急バス(株)と相談しながら、周知方法や配布場所を検討する。
- サポーター店の発掘について、取組方針を教えてください。
→地元の協力を得ながら、店舗数の拡充を図る。また、割引制度のあり方についても検討する。
- 絵画募集の応募作品については、多くの方に見ていただけるよう、展示場所や方法を工夫してほしい。また、応募作品には、オレンジゆずるバスへのコメントもつけてもらっているので、あわせて掲示してほしい。
→検討する。
- 乗り方教室については、具体の対象校が決まっているのか。また、実際のオレンジゆずるバスを校庭に持ち込む予定か。
→オレンジゆずるバスを持ち込むことを前提としているが、対象校は未定である。少なくとも東部、中部、西部から1校ずつは実施したいと考えている。

(2) 実証運行の状況について

(3) 平成 25 年度の本格運行に向けた今後の取り組みについて

【意見・質疑応答は次のとおり。】

○収入の内訳で専用の回数券と IC カードが伸びているが、要因は明らかになっているか。

→阪急バス（株）の回数カードの廃止に伴うハニカへの移行の影響があると考えている。

○利用促進については、“今まで使っていない人”をターゲットにしていくのか。

→アンケート結果もふまえながら、市民部会でも検討していきたい。なお、利用率が、当初の目標値である 4 割を上回ってきていることは評価できると認識している。

○見直し内容を議論していくためには、個々の見直し案に対する具体的な影響がわかる資料提供をしてほしい。

→市民部会では、具体的な影響に関する検討資料を提供して、議論を進めていきたい。

○地域活性化の観点からみると、箕面市でお金を使ってもらうことが大事だと思う。したがって、買物・食事のような利用目的が多い休日については、利用者が少なくとも、運行の価値が高いのではないかと。

→ご意見を踏まえて、協議会や分科会で検討していきたい。

○本格運行に向けて、見直しによる運行経費の削減を考えるだけでなく、新たな収入源を模索することも必要ではないか。

○バスを利用しない人でも、オレンジゆずるバスを支援したい人は多いと思う。“バスに乗る”以外でも支援できる仕組みを作してほしい。

○新たな収入を獲得するためには、いち早く仕組みをつくってしまった方がいいのではないかと。

→支援制度も含めた新たな収入源については、確実性を見極めながら検討していきたい。

○平成 25 年度以降も、柔軟な見直しができるようにしておいたほうがいい。そのためにも、P D C A の仕組みづくりを考えていただきたい。

→平成 25 年度以降のあり方については、今後協議会や分科会等で議論をしていきたい。

(5) その他

【意見・質疑応答は次のとおり。】

○次回の協議会については、見直しの方向性が議論できるように分科会等で十分議論した上で、たたき台としての資料を提示してほしい

→承知した。次回は 10 月下旬を予定している。

以上